新日本保険新聞
生保版
第１～４月曜日発行
発行所　新日本保険新聞社
大阪市西区靱本町１丁目５－15
(郵便番号550-0004)
電話　(06) 6225－0550（代表）
FAX　(06) 6225－0551（専用）
購読料　１か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2025

78th Anniversary since1947
創業昭和22年
保険・共済業界と共に歩んで78年

生保の引受査定担当者など150名が参加

日本アンダーライティング協会が第14回年次大会開催

生命保険会社で、引受査定業務を行う担当者等で構成される、日本アンダーライティング協会の第14回年次大会が5月16日、東京・千代田区の九段会館で開催され、約150名の会員が出席した。大会では、今井理日本生命主任査定医長やサイバーオミックス社の渡辺亮代表取締役社長による講演のほか、インシュアテック部会、事例研究部会のメンバーによる発表など、最新の知見が共有された。また、アンダーライターとしての知識習得を目的とした第14回アンダーライティング試験の合格状況も発表され、上級試験合格者が合格証を授与された。

ICD－Oについて学ぶ

改定内容を定期的にチェック

星子代表理事

冒頭、星子敏郎代表理事（住友生命）が次のとおり挨拶を行った。

「年次大会開催にあたり、大会運営にご協力いただいたスポンサー企業の皆さまには心より感謝申し上げる。合計17社の皆さまにご協力いただいており、本当にありがとうございます。

本日最初の講演では、日本生命の今井先生より、国際疾病分類の腫瘍学について講演いただく。また、インシュアテック部会、事例研究部会の発表も予定している。さらに、株式会社サイバーオミックスの渡辺代表取締役社長には、DNAの解析と次世代の医療についてお話しいただく。日常の査定業務から少し離れて将来の生命保険について考える素晴らしい機会になると思う。

最後になるが、本日の年次大会を含めた当協会の活動は会員各社の皆さまのご支援によって支えられている。会員各社の皆さまには、心より御礼申し上げる。本日の大会が皆さまにとって有意義なものとなることを心から願っている」

続いて、講演会Aとして、日本生命契約査定G主任査定医長で日本保険医学会副会長の今井理氏が「良性？　悪性？　境界悪性!?　国際疾病分類（ICD－O）を知って査定の知識を深めよう」と題した講演を行った。

講演では、「がん」の基礎知識から、引受査定業務を行う上での国際疾病分類の腫瘍学についての概要が解説された。そして「がんは査定上、頻繁に出会う疾患であり、がん検診の普及に伴い、早期発見されるがんについての引受査定案件が増えている。多くの保険会社で、支払いの判断にICD－Oの基準を用いているが、近年では、数年に一度改定が行われており、良性から悪性に、悪性から良性に分類が移行する疾患もある。引受査定にも影響があるので、ICD－Oの改定は定期的なチェックと分析が必要だ」とした。

休憩をはさみ、インシュアテック部会のメンバーによる活動報告が行われた。9社12名の参加メンバーのうち、遠藤裕太氏（プルデンシャル生命）、斎藤柊斗氏（メットライフ生命）、妹尾あや氏（エヌエヌ生命）、浜田一輝氏（東京海上日動あんしん生命）の4氏が登壇して、報告を行った。

同部会の発表では、AIを活用した査定業務をサポートするシステムを提供するプロバイダーの商品についての解説を行うと共に、メンバーが実際に導入した保険会社を訪ねて、導入して大変だった点や、導入直後や今後の課題などをヒアリングした内容を発表した。

会場のようす

課題としては「意図しない査定結果がまれに発生した」「誤判定査定は復活で引受するしかない」「モラルリスクは見抜きにくい」といった早期の課題から、「特定条件下等の自動査定化」「マイナポータル連携等を活用した査定制度の向上」といった、今後の検討課題などが紹介された。

最後にAI査定導入にあたっては、①データの品質管理②査定結果の説明責任③査定結果の検証および改善対応④既存の査定業務プロセスとの統合⑤データリテラシーおよび専門性の向上、といった課題があり、「AI査定を推進するにあたっては、アンダーライターとしてのスキルとデータ活用のスキルの両方を適切に組み合わせることで、査定領域のAI活用が推進されていく」とまとめた。

DNA解析で未来のがん治療

続いて、事例研究部会が具体的な疾病と査定事例に基づいて、ポイントと査定評価を発表した。メンバーは、田嶋晃太郎氏（オリックス生命）、椿原麻里氏（エヌエヌ生命）、中平絢子氏（メットライフ生命）、松本瑞穂氏（日本生命）、今井理氏（メディカルアドバイザー）の5氏。それぞれ実務上生じた事例における査定の評価について解説した後、まとめとして、「引受結果は、情報のあいまいさや疾患の特性、合併症の有無によって保険会社ごとにばらつきが生じるが、各社の方針による違いによるもので、いずれも誤りではない。

査定基準に一致するケースだけでなく、一致しないケースや被保険者からの情報が不明瞭な場合も存在する。そうした場合には、査定資料から得られる情報を正確に理解し、既存の情報を基にリスクを予測することが重要となる。また、必要に応じて追加情報を取得し、適切な査定結果を導き出すことが求められるが、そうした判断を行うために査定者が多くの知識を蓄積していくことが必要であり、それが正確なリスク予測につながる」と結論づけた。

上級合格者のみなさん

休憩の後、講習会Bとして、株式会社サイバーオミックスの渡辺亮代表取締役社長による「生命の設計図DNAを解析し、次世代の医療を創り出す」と題した講演が行われた。サイバーオミックス社はバイオベンチャー企業として、世界で初めてヒトiPS細胞を用いた細胞移植において、DNAの配列を決定する技術（ゲノム解析）を利用した「細胞治療時代の品質評価方法」を確定。講演では、「生命の設計図」と呼ばれているDNAの解析手法と、同社が牽引してきたシングルセル解析と、それが主役となる近未来のがん治療手法について紹介された。

その後、2024年度に実施された会員の専門知識を問う第16回アンダーライティング試験の結果が報告され、受験者数1711名、うち合格者数は、初級567名、中級234名、上級171名の合計972名と発表された。このうち上級合格者が登壇し、合格証（トロフィー）が授与された。記念撮影の後、年次大会は無事終了した。

その後、会場を移動して会員の懇親会が行われ、プログラムは終了した。